



令和6年12月10日
国土交通省九州地方整備局
筑後川河川事務所

『安全・安心なまちづくりセミナー』
～令和5年7月豪雨災害から1年
巨瀬川における“うきは市の安全・安心なまちづくり”にむけて～
の開催について

令和5年7月豪雨災害から1年が経過するなか、昨年の災害を振り返るとともに、気候変動の影響によるリスクの増大に対応するため、これからの「流域治水」の取り組みを知っていただき、「水害につよく安全・安心なまちづくり」に向けた一助となることを目的としてセミナーを開催します。

1. 開催日時 : 令和6年12月15日(日) 14時00分～15時30分
(開場13:30)

※会場内には防災情報ブースも設置します。

2. 開催場所 : るり色ふるさと館(福岡県うきは市吉井町983-1)

3. 主 催 : 国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所

4. 協 力 : うきは市
福岡県 県土整備部 河川整備課

5. 内 容 : 別添チラシ参照

6. その他 :

・会場の都合上、報道機関のみなさまにつきましては12月12日(木)17:00迄
に別紙1のとおり登録をお願いいたします。

問合せ先 筑後川河川事務所	流域治水課長	かねた 金田 剛紀(内線351)
	専門調査官	えがみ 江上 綾子(内線406)
	電話 0942-33-9134	(流域治水課直通)

安全・安心まちづくりセミナー 取材登録

「安全・安心まちづくりセミナー」の取材をご希望される報道機関におかれましては、事前にご登録のご協力をお願いいたします。

メール送信期限： 12月12日（木）17：00まで

送信先アドレス： qsr-chikugo-hp@mlit.go.jp

【ご登録の際にご連絡いただく内容】

1. 報道機関名

2. 取材者等

①ご氏名 ②連絡先（電話番号） ③取材人数 ④取材車両の種類等

【取材に関する留意事項】

- ① 会場内では、「報道関係」と表示された席にお座りください。
- ② 会議中のカメラ撮影は、当日指定する範囲内で行ってください。
- ③ 会場の都合により、会場内で電源をとることはできません。パソコン等を使用される場合は、バッテリー等をご持参願います。
- ④ その他、取材にあたっては、係員の指示に従ってください。

参加
無料

事前
申込不要

令和5年7月豪雨災害から1年

巨瀬川における“うきは市の安全・安心なまちづくり”にむけて

日時 令和6年12月15日（日）

会場セミナー 14:00～15:30（開場 13:30）

※会場内には防災情報ブースも設置します。

会場 るり色ふるさと館 うきは市吉井町 983-1

セミナープログラム

基調
講演

今後の筑後川流域の豪雨災害の可能性

九州大学名誉教授 小松 利光 氏

情報
提供

1) 令和5年7月豪雨を踏まえた巨瀬川の流域治水対策

福岡県 県土整備部 河川整備課

2) 安全・安心なまちづくりに向けて

国土交通省 九州地方整備局

筑後川河川事務所 流域治水課

防災情報ブースでは、ハザードマップ等の防災情報やダンボールペットの展示、ARによる浸水体験等を行います。



国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所、福岡県 県土整備部 河川整備課、うきは市

お問合せ

セミナー全体に関して➡
防災情報ブースに関して➡

筑後川河川事務所 流域治水課
うきは市 市民協働推進課

TEL 0942-33-9134
TEL 0943-75-3111

開催趣旨

巨瀬川流域では、令和5年7月の記録的な豪雨に伴う河川の氾濫や土砂災害等により、家屋の浸水や農地、森林等に甚大な被害が生じました。

この豪雨災害を受けて、巨瀬川流域のあらゆる行政関係者が協働し、水害、土砂災害に対する強靱な地域づくりを推進するため、「筑後川水系巨瀬川流域緊急治水対策プロジェクト」を策定し、様々な対策を実施しています。

今回のセミナーは、災害から1年が経過するなか、昨年の災害を振り返るとともに、気候変動の影響によるリスクの増大に対応するため、これからの「流域治水」の取組みを知っていただき「水害につよく安心・安全なまちづくり」に向けた一助となることを目的として開催するものです。

セミナープログラム

14:00 開 会

14:10 基調講演

今後の筑後川流域の豪雨災害の可能性

九州大学名誉教授 小松 利光 氏

15:00 情報提供

1) 令和5年7月豪雨を踏まえた巨瀬川の流域治水対策

福岡県 県土整備部 河川整備課

2) 安全・安心なまちづくりに向けて

国土交通省 九州地方整備局

筑後川河川事務所 流域治水課

15:30 閉 会

九州大学名誉教授

小松 利光 氏

【経 歴】

1975年九州大学大学院工学研究科
水工土木学専攻博士課程修了。

2000年から九州大学工学研究院教授

2012年から同大学名誉教授。

専門は環境水理学・河川工学・防災工学。

【近年の筑後川での主な活動】

- ・九州北部豪雨災害土木学会緊急調査団団長
- ・筑後川右岸流域 河川・砂防復旧技術検討委員会委員長
- ・九州河川技術懇談会 顧問
- ・筑後川学識者懇談会 委員
- ・矢部川学識者懇談会 委員
- ・巨瀬川流域治水推進会議（令和5年8月から）



地域を“みず”から守る流域治水

これまでも、筑後川流域では水害が度々発生していましたが、近年、大雨による河川の氾濫、内水被害、土砂災害等の水災害が頻発しています。

今後も、気象変動の影響による降雨量の増大に伴い、水害の激甚化・頻発化が懸念されています。

このような水災害の増大するリスクに対応するためには、堤防整備などの河川整備を加速化するとともに、国、地方公共団体、地域の企業、住民の方々、あらゆる関係者が協働した流域全体の取組み「流域治水」が重要となります。

河川整備や砂防・治山対策と合わせて、農地や森林の保全や雨水の貯留・浸透等による流出抑制、防災情報の収集、早期の避難行動など、一人ひとりの『地域を“みず”から守る流域治水』の取組みが、「水害に強く安心・安全なまちづくり」の実現につながるようになります。

一人ひとりが協力し何ができるのか考えてみませんか。



平成29年7月九州北部豪雨
(朝倉市)



令和2年7月豪雨
(日田市)

【民間や各家庭での貯留・浸透】



【災害に対する知識を深める】



【防災情報を収集する】

